



NetApp Console (SaaS) を使い始める

NetApp Console setup and administration

NetApp
January 16, 2026

This PDF was generated from <https://docs.netapp.com/ja-jp/console-setup-admin/task-quick-start-standard-mode.html> on January 16, 2026. Always check docs.netapp.com for the latest.

目次

NetApp Console (SaaS) を使い始める	1
開始ワークフロー (SaaS)	1
NetApp Consoleのネットワークアクセスを準備する	2
NetApp Consoleおよびコンソールエージェントが接続するエンドポイント	3
クラウドプロバイダーのエンドポイントがコンソールエージェントに接続しました	3
コンソールエージェントが接続するデータサービスエンドポイント	4
NetApp Consoleにサインアップまたはログイン	4
NetApp Consoleに初期組織管理者としてサインアップする	4
組織がすでに存在する場合は、NetApp Consoleにサインアップまたはログインしてください	5
NetApp Consoleアシスタントの使用を開始する	6
コンソールアシスタントにアクセスするために必要な役割	6

NetApp Console (SaaS) を使い始める

開始ワークフロー (SaaS)

NetApp Console(SaaS) の使用を開始するには、コンソールのネットワークを準備し、サインアップしてアカウントを作成し、コンソール アシスタントを使用して初期機能を設定します。

NetAppの Software-as-a-service (SaaS) 製品としてホストされているWebベースのコンソールにアクセスします。コンソールを使用して、ハイブリッド クラウド ストレージ環境を管理し、NetAppデータ サービスを使用できます。

1

"NetAppコンソールを使用するためのネットワークの準備"

NetAppコンソールにアクセスするコンピューターが必要なエンドポイントにネットワーク アクセスできることを確認します。

"NetAppコンソールのネットワークを準備する方法を学びます。"

2

"サインアップして組織を作成する"

に行く "NetAppコンソール" そしてサインアップしてください。組織を作成するように求められた場合、会社すでに組織が存在すると思われる場合は、ダイアログ ボックスを閉じて、組織の管理者に連絡してください。現在、会社組織管理者がいない場合は、この役割を申請できます。"組織管理者に連絡する方法について説明します。"

この時点でログインしており、NetAppアシスタントを使用してコンソールの構成を開始できます。まず、NetAppサポート アカウントとコンソール エージェントを関連付けて、完全な機能を有効にします。

NetAppアシスタントを使用しない、またはコンソール エージェントをインストールしない場合は、ストレージの管理を開始し、Digital Advisor、Amazon FSx for ONTAP、Azure NetApp Filesなどのサービスを使用できます。"コンソールエージェントなしで何ができるかを学ぶ"。

3

NetApp Support Site (NSS) アカウントを関連付ける

NetApp Support Site(NSS) アカウントをコンソールに関連付けると、ライセンスとサブスクリプションをより簡単に管理できるだけでなく、コンソールから直接サポート リソースにアクセスできるようになります。

4

コンソールエージェントを作成する

高度なストレージ管理機能と一部のNetAppデータ サービスを使用するには、コンソール エージェントをインストールする必要があります。コンソール エージェントにより、コンソールはハイブリッド クラウド環境内のリソースとプロセスを管理できるようになります。

クラウドまたはオンプレミス ネットワークにコンソール エージェントを作成できます。

• "コンソールエージェントが必要な状況とその動作について詳しくは、"

- ["AWS でコンソールエージェントを作成する方法を学ぶ"](#)
- ["Azure でコンソール エージェントを作成する方法を学びます"](#)
- ["Google Cloud でコンソール エージェントを作成する方法を学びます"](#)
- ["オンプレミスでコンソールエージェントを作成する方法を学ぶ"](#)

5

コンソールにストレージシステムを追加する

NetApp Console内で、ストレージ システムを追加または検出して、ハイブリッド クラウド ストレージ環境を管理できます。NetAppアシスタントを使用して、最初のストレージ システムを追加します。



AWS、Microsoft Azure、または Google Cloud にコンソール エージェントをインストールすると、コンソールはエージェントがインストールされている場所にあるAmazon S3バケット、Azure Blob ストレージ、または Google Cloud Storage バケットに関する情報を自動的に検出します。これらのシステムは自動的に システム ページに追加されます。

- ["ONTAPシステムの検出方法を学ぶ"](#)
- ["StorageGRIDシステムの検出方法を学ぶ"](#)
- ["Eシリーズ システムの発見方法を学ぶ"](#)

6

"NetApp Intelligent Services"に加入する（オプション）

クラウド プロバイダを通じて、時間単位 (PAYGO) または年額課金でNetApp Intelligent Servicesにサインアップします。サブスクリプションには、NetApp Backup and Recovery、Cloud Volumes ONTAP、NetApp Cloud Tiering、NetApp Ransomware Resilience、NetApp Disaster Recovery、NetApp Data Classificationが含まれます。

NetApp Consoleのネットワークアクセスを準備する

NetApp Console、NetApp Consoleエージェント、およびNetAppデータ サービスには、アウトバウンド インターネット アクセスと、必要なエンドポイントに接続する機能が必要です。

次のネットワーク アクセスを設定する必要があります。

- NetApp Consoleに SaaS (Software as a Service) としてアクセスするコンピュータ
- オンプレミスまたはクラウドにインストールするコンソール エージェント。コンソールエージェント。



4.0.0 では、NetApp はコンソールとコンソール エージェントに必要なネットワーク エンドポイントを削減し、セキュリティを強化して導入を簡素化しました。重要なのは、バージョン 4.0.0 より前のすべてのデプロイメントが引き続き完全にサポートされることです。以前のエンドポイントは既存のエージェントで引き続き使用できますが、NetApp、エージェントのアップグレードが成功したことを確認した後、ファイアウォール ルールを現在のエンドポイントに更新することを強くお勧めします。["エンドポイント リストを更新する方法について説明します。"](#)

NetApp Consoleおよびコンソールエージェントが接続するエンドポイント

導入する各エージェントとNetApp Consoleにアクセスする各コンピューターは、以下にリストされているエンドポイントに接続する必要があります。

クラウド プロバイダーに展開されているコンソール エージェントは、そのクラウド プロバイダーに対応するエンドポイントにアクセスする必要があります。

エンドポイント	目的
https://mysupport.netapp.com	ライセンス情報を取得し、AutoSupportメッセージをNetAppサポートに送信します。
https://signin.b2c.netapp.com	NetAppサポート サイト (NSS) の資格情報を更新したり、NetApp Consoleに新しいNSS 資格情報を追加したりします。
https://support.netapp.com	ライセンス情報を取得し、AutoSupportメッセージをNetAppサポートに送信し、Cloud Volumes ONTAPのソフトウェア アップデートを受信します。
https://api.blueexp.netapp.com https://netapp-cloud-account.auth0.com https://netapp-cloud-account.us.auth0.com https://console.netapp.com https://components.console.blueexp.netapp.com https://cdn.auth0.com	NetApp Console内で機能とサービスを提供します。
https://blueexpinfraprod.eastus2.data.azurecr.io https://blueexpinfraprod.azurecr.io	コンソール エージェントのアップグレード用のイメージを取得します。 - 新しいエージェントを展開すると、検証チェックによって現在のエンドポイントへの接続がテストされます。使用する場合"以前のエンドポイント"、検証チェックは失敗します。この失敗を回避するには、検証チェックをスキップします。 以前のエンドポイントも引き続きサポートされますが、NetApp、ファイアウォール ルールをできるだけ早く現在のエンドポイントに更新することをお勧めします。"エンドポイントリストを更新する方法を学ぶ"。 - ファイアウォールの現在のエンドポイントに更新すると、既存のエージェントは引き続き動作します。

クラウドプロバイダーのエンドポイントがコンソールエージェントに接続しました

コンソール エージェントがクラウド プロバイダーに展開されている場合、追加のエンドポイントにアクセスする必要があります。

コンソール エージェントをインストールする前に、クラウド プロバイダー ネットワーク エンドポイント アクセスを設定します。

- "コンソールエージェントの AWS ネットワークアクセスを設定する"
- "コンソール エージェントの Azure ネットワーク アクセスを設定する"
- "コンソール エージェントの Google Cloud ネットワーク アクセスを設定する"

コンソールエージェントが接続するデータサービスエンドポイント

一部のNetAppデータ サービスとCloud Volumes ONTAP、エージェントに追加のアウトバウンド インターネット アクセスが必要です。

Cloud Volumes ONTAPのエンドポイント

- "AWS のCloud Volumes ONTAPのエンドポイント"
- "Azure のCloud Volumes ONTAPのエンドポイント"
- "Google Cloud のCloud Volumes ONTAPのエンドポイント"

ワークロードのエンドポイント

コンソール エージェントは、 NetAppワークロードの次のエンドポイントにアクセスできる必要があります。

エンドポイント	目的
https://api.workloads.netapp.com	Webベースのコンソールは、このエンドポイントに接続して Workload Factory API と対話し、FSx for ONTAPベースのワークロードを管理および操作します。

NetApp Consoleにサインアップまたはログイン

コンソールを使用するには、NetApp Support Siteの認証情報を使用してサインアップまたはログインするか、NetApp Consoleのログインを作成します。社内で最初にサインアップする場合は、管理者として新しい組織を作成します。会社すでに組織がある場合は、既存のNetApp Support Siteの認証情報または会社のシングル サインオン (SSO) を使用してサインアップまたはログインします。

NetApp Consoleに初期組織管理者としてサインアップする

会社にNetApp Console組織がない場合は、サインアップして作成してください。最初のユーザーは組織管理者となり、ユーザー アカウントと権限を管理します。後からロールを更新したり、管理者を追加したりすることもできます。

手順

1. ウェブブラウザを開いて、 "NetApp Console"
2. NetApp Support Siteのアカウントをお持ちの場合は、ログイン ページでアカウントに関連付けられている電子メール アドレスを直接入力します。

コンソールは、この最初のログインの一部として、NetApp Support Siteの資格情報を使用してサインアッ

プします。

3. コンソール ログインを作成してサインアップする場合は、[サインアップ] を選択します。
 - a. *サインアップ*ページで必要な情報を入力し、*次へ*を選択します。



サインアップフォームでは英語の文字のみ使用できます。

- b. 受信トレイで、電子メール アドレスを確認するための手順が記載されたNetAppからの電子メールを確認してください。

サインアップを完了するには、メールアドレスを確認してください。

4. ログイン後、エンドユーザー使用許諾契約書を確認して同意します。
5. *ようこそ*ページで組織を作成します。
6. *始めましょう*を選択します。

+ 初めてのユーザーおよび組織管理者は、ガイド付きのプロセスに従ってストレージ リソースの追加、コンソール エージェントの作成などを行います。"[コンソール アシスタントの使用について説明します。](#)"

次のステップ

管理者は、コンソール アシスタントに含まれる手順を完了した後、ID とアクセス戦略を計画し、組織にユーザーを追加し、ロールを割り当てる必要があります。"[NetApp ConsoleのIDとアクセス管理について学ぶ](#)"

組織がすでに存在する場合は、**NetApp Console**にサインアップまたはログインしてください

会社にすでにNetApp Console組織がある場合は、サインアップまたはログインしてアクセスしてください。サインアップまたはログインの方法は、会社が ID フェデレーションを使用しているか、NetApp Support Site の認証情報を持っているかによって異なります。そうでない場合は、NetApp Consoleログインを作成します。

手順

1. ウェブブラウザを開いて、"[NetApp Console](#)"
2. NetApp Support Siteのアカウントをお持ちの場合、または会社でシングル サインオン(SSO) を設定している場合は、[ログイン] ページに関連付けられている電子メール アドレスまたは SSO 資格情報を入力します。指示に従ってログインを完了してください。

どちらの場合も、最初のログインの一環としてコンソールにサインアップされます。

3. コンソール ログインを作成してサインアップする場合は、[サインアップ] を選択します。
 - a. *サインアップ*ページで必要な情報を入力し、*次へ*を選択します。



サインアップフォームでは英語の文字のみ使用できます。

- b. 受信トレイで、電子メール アドレスを確認するための手順が記載されたNetAppからの電子メールを確認してください。

サインアップを完了するには、メールアドレスを確認してください。

4. ログイン後、エンドユーザー使用許諾契約書を確認して同意します。
5. システムから組織の作成を求められた場合は、ダイアログ ボックスを閉じてコンソール管理者に伝え、コンソール組織に追加してアクセス権を付与してもらいます。 ["組織管理者に連絡する方法について説明します。"](#)

次のステップ

組織へのアクセス権が付与されると、ストレージの管理と割り当てられたデータ サービスの使用を開始できます。

NetApp Consoleアシスタントの使用を開始する

組織管理者ロールを持つNetApp Console(SaaS) を初めて使用する場合は、コンソールアシスタントを使用して初期セットアップ プロセスをガイドできます。アシスタントを使用すると、NetApp Support Site(NSS) アカウントの追加、コンソール エージェントの追加、クラスターの追加、ライセンスまたはサブスクリプションの追加が可能になり、データの管理を簡単に開始できるようになります。

コンソールアシスタントにアクセスするために必要な役割

コンソール アシスタントは、組織管理者の役割を持つユーザーのみが利用できます。

デフォルトでは、NetApp Consoleは、組織管理者ロールを持つ初めてのユーザーのホーム ページにコンソール アシスタントを表示します。コンソール エージェントの作成とシステムの追加という必須タスクが完了するまで、引き続き使用できます。

アシスタントを使用して次のタスクを完了します。これにより、NetApp Console環境の最小限のセットアップが提供されます。

- NetAppサポート サイト (NSS) アカウントを追加します。

["NSSアカウントを追加する方法を学ぶ"](#)。

- コンソール エージェントを展開してストレージ エステートに接続します。

["オンプレミスでコンソール エージェントをインストールする方法を学習します。"](#)

- クラスターを追加または検出してストレージ システムを管理する
- マーケットプレイスのサブスクリプションまたは PAYGO ライセンスを追加します。

["ライセンスとサブスクリプションを追加する方法を学ぶ"](#)。

- データ サービス情報を確認します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。